

十四、第四十六行第一語 *udu* は *uduy* の誤りである。

十五、第四十八行第三語 *bolog* は「ナル」と譯してあるが自分にはその理由が解らない、特に「ナル」といふ意味のかゝる言葉があるのか、それとも *bolmaq* といふ言葉の變化と見られたものか、或はまたコンテキストの上から譯せられたものかとも思ふ、しかし此語は「角」もしくは「隅」といふ意味で方角を示す場合には屢々用ゐられるものである、それで「十の角の方」即ち十方の意味になるのである。

十六、第五十行末語 *uz qoro* を二語にして「悉くを攝護し」と譯し「畫一切の義なり」と注してあるが、元來これは二語ではなくて *ozkurru* といふ一語である、意味は「救ふ」といふのが當るであらう、もとより「悉クヲ」の意は此の語には存しないものと思ふ。

以上書き上げた諸點は只今迄に思ひうかむだことであつて譯者と意見を異にする處である、もとより初學の余のことであるからして必らずしも自分の考が正しいとは思つて居ないと同時に、尙ほ穿鑿すれば此の上にも疑問を生ずるかも知れないとも考へる、とにかく考へるまゝを録したのである。

こゝで斷つて置かねばならぬことは、かくの如く自分の考をのべたからとて、決して此の翻譯をせられた方の功を没する様な積りでないといふことである、かゝる文書の解釋の困難なことは初めにのべた通りである、その困難に堪へて研究した結果を世に公やけにする時には、一人でも多く、そうして少しでもふかく讀むで呉れるものがあるならばとは、誰しも希望に堪へないことと思ふ、余は譯者の努力の深甚なるに敬意を捧げて、一語もらさず研究